

中高生の居場所づくり

取組のあらまし

取組団体 愛知県名古屋市

取組内容 週に1回午後5時から午後8時までの夜間、中高生専用の時間帯として、なごホーム（児童館）を開放することで、中高生の居場所をつくる。さらに、実施回数等を拡充したモデル事業を4館で実施している。

予算等 1館 8,000,000 円（令和7年度）（中高生の居場所づくりモデル事業分）

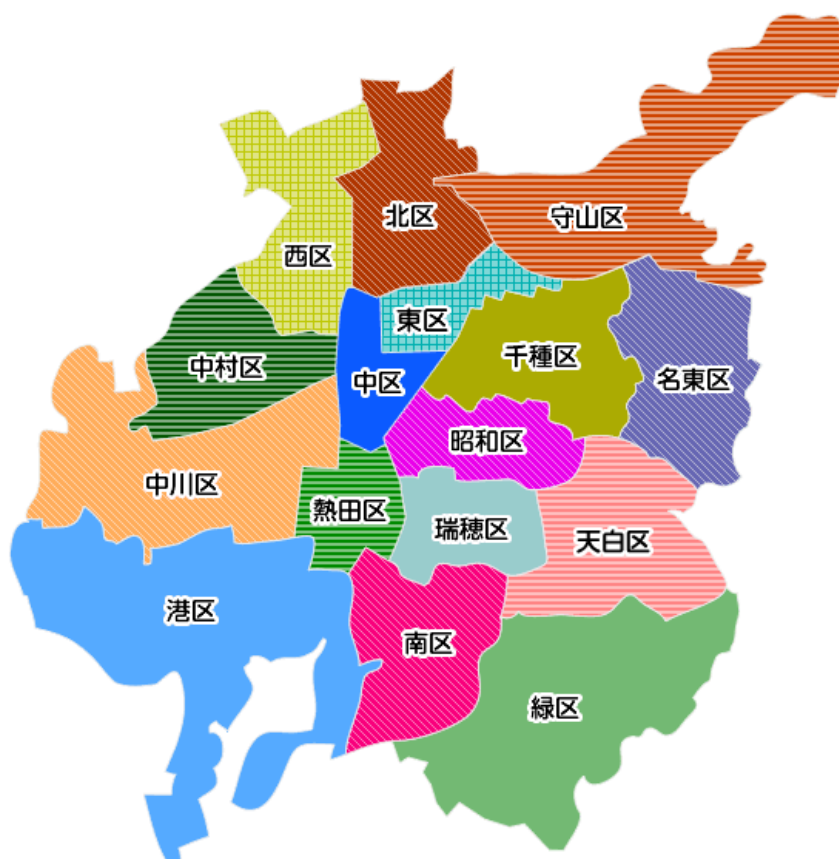
1 愛知県名古屋市の概要

人口 2,303,004 人 令和7年1月1日現在（住民基本台帳人口）

職員数 33,954 人 令和7年度現在

総面積 326.45 km² 令和7年10月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 愛知県名古屋市（区域）



出所：名古屋市ホームページ

2 取組の背景・目的

(1) こどもの居場所の変化

令和5年12月に施行されたこども家庭庁の「こどもの居場所づくりに関する指針」において、「こどもは家庭を基盤とし、地域や学校など様々な場所において、安全・安心な環境の下様々なおとなや同年齢・異年齢のこども同士との関わりの中で成長する存在であるが、社会構造や経済構造の変化により、こども・若者が居場所を持つことが難しくなっている現状にある。」とし、また、コロナ禍の感染症対策の1つであったソーシャルディスタンスの確保要請は、「こども・若者が居場所を持つことを一層困難にした。」と記している。

家族・子育て環境を含めた社会情勢は、核家族化や少子高齢化が進み、働き方改革が叫ばれるなど、徐々に変動していたが、新型コロナという未曾有の感染症流行により、さらに変化していった。それは、こどもたちも例外ではなく、そうした変化の中で、こどもたちの新しい居場所づくりが必要とされている。

(2) 名古屋市におけるこどもたちの居場所

名古屋市では、小学生の児童を対象とした放課後施策が2つ存在する。1つは学校施設を活用した施策「トワイライトスクール」、「トワイライトルーム」、もう1つは留守家庭児童育成会等を主とする留守家庭児童健全育成事業である。

トワイライトスクールは放課後子供教室事業（体験活動等の参加を通じて自主性、社会性や創造性を育む社会教育事業）であり、トワイライトルームはトワイライトスクールの機能に加え、おやつ時間が設けられるなど放課後児童クラブの機能を有している。

こういった取組により、名古屋市における小学生の放課後の居場所が整えられていく一方で、中高生のための居場所が少ない現状があった。

3 取組内容

(1) 名古屋市の児童館

名古屋市には、16の行政区ごとに、なごホーム（児童館）が設置されている。原則として利用時間は午前8時45分から午後5時までで、週に一度の休館日が設けられている。利用対象は、0歳から18歳未満のこどもとその保護者等である。

各なごホーム（児童館）では、遊戯室、乳幼児室、ホール、飲食スペース、図書室などの自由利用の他、読み聞かせや外遊び、子育て中の父母のコミュニティづくりなどの乳幼児向けの取組、小中高生向けの講座などのイベントを開催している。

ア なごホーム（児童館）における中高生専用時間帯

なごホーム（児童館）の利用時間は原則的に午前8時45分から午後5時までであり、その時間には中高生も利用することができるが、午後5時までの利用時間では、中高生が下校後に利用しようとする1時間も利用できないことを受け、午後5時から午後8時までの時間を中高生専用時間帯として設けている。

中高生専用時間帯は、モデル館である西児童館、熱田児童館、港児童館、緑児童館では週に3回、モデル館以外の12館では週に1回開設されている。なお、実施曜日・名称は各館で異なる。

緑児童館では、この中高生専用時間帯のことを「GTタイム（グリーンティーンズタイム）」と呼称しているが、名東児童館では「がやがやタイム」、西児童館では「ナイト児童館」、前津児童館では「まえづ★ナイトタイム」、熱田児童館では「あったかNIGHT」など、館ごとに特色ある様々な名称で親しまれている。

利用者の多くは中学生であり、高校生の利用は少なく、市のSNS等の広報活動よりも友人に連れられて訪れるケースが多い。

図表2 緑児童館の体育室の様子



出所：名古屋市（名古屋市公式 note）

イ モデル館（西児童館、熱田児童館、港児童館、緑児童館）の実施体制

名古屋市では、なごホーム（児童館）は指定管理者制度で運営されており、この中高生専用時間帯のなごホーム（児童館）運営も指定管理業務として実施している。

① 実施日

モデル館は週に3日、中高生専用時間帯を設けている。これは、曜日によっては利用できない子どももいることから、より多くの中高生に居場所を提供するために他の児童館よりも実施日数を2日増やして対応している。

② 人員配置

モデル館では、16時から20時までの4時間勤務スタッフを2名配置する他、1日7.5時間、週5日勤務スタッフとして中高生世代との関わり方に知見を有した専任スタッフを1名配置している。この専任スタッフは特定の資格の取得は不要であるが、名古屋市は事業者に対し、中高生世代との関わり方に資する研修を受講することを求めている。

③ 予算・設備

他のなごホーム（児童館）は指定管理料内で対応しているのに対し、モデル館では実施日を増やすための人件費を加算し、無線LAN環境の整備や中高生向けの備品購入ができるよう、予算を確保した。

整備した無線LANは、中高生がスマートフォンを利用して動画を再生しながらダンスの練習を行ったり、勉強のための調べものをしたりする際などに幅広く活用されている。

4 成果・課題

(1) 取組の成果

取組の実施回数が多いモデル館では、取組の広がりとともに1回の利用者数も増加していることから、中高生も居場所を求めていることが分かる。

また、同じスタッフが継続して在席することは、なごホーム（児童館）のスタッフが子どもたちにとって安心又は信頼できる身近な大人になるためのきっかけとなり得る。名古屋市では、継続的に取組を続けていく中で、子どもから悩みを相談され、専門機関の支援につながった事例もあり、大人が見守るこどもの居場所としても一定の効果があったと言える。

（2）今後の課題

名古屋市のなごホーム（児童館）は、0歳から18歳未満が利用できる施設として継続して成長過程に関わることができるという利点がある一方で、「児童館」という名称が「小学生まで」という印象を持たれており、中高生の利用を遠ざけている面もあることがうかがえる。このことから広報方法の工夫や、令和6年度に決定した愛称「なごホーム」の周知・浸透など、利用増進に向けた対応が期待される。

関連・参考資料

熊本市・地方自治研究機構『こどもの居場所及びその開設等の支援に関する調査研究』p.186-189

子ども家庭庁ホームページ「こどもの居場所づくり」

<https://www.cfa.go.jp/policies/ibasho>

名古屋市ホームページ「区のプロフィールについて」

<https://www.city.nagoya.jp/shicho/page/0000001797.html>

名古屋市ホームページ「各なごホーム」

<https://www.city.nagoya.jp/kodomoseishonen/page/0000096170.html>

名古屋市ホームページ「児童館の愛称が「なごホーム」に決定しました！」

<https://www.city.nagoya.jp/kodomoseishonen/page/0000181094.html>

西児童館ホームページ

<https://www.nishiku-shakyo.jp/jidoukan/>

熱田児童館ホームページ

<http://atsutajidoukan.web.fc2.com/>

港児童館ホームページ

<https://www.minatojidoukan.com/>

緑児童館ホームページ

<https://midorijidoukan.com/>

名古屋市公式 note「中高生集合！児童館で一緒に遊ぼう～中高生の居場所づくり～」

<https://nagoya-city.note.jp/n/n43b0288ee425>